

第81回日本医学放射線学会総会 死後画像ワークショップを開催して

福井大学 医学部 法医学 | 兵頭秀樹

はじめに

2022年4月15～17日にパシフィコ横浜で開催された、第81回日本医学放射線学会総会「未来への潮流と変革」のワークショップの一つとして、死後画像ワークショップを担当しましたので、概要等をご紹介します。

このワークショップは、北海道大学 死因究明教育研究センター(以下センター)が担当した全国規模としては初の死後画像に関するハンズオンワークショップであり、2021年10月に北海道大学内で実施した死後画像ワークショップを発展させたものです。センターでは死因究明に関する諸課題について研究を重ねており、死後画像の活用に関しても学術論文発表等を通じて学外に広く発表を行っております。その研究活動が認められ、2022年5月には、国際法医放射線画像学会の年次総会をアジアで初めて開催することとなり、センターに所属しておりました筆者が主催させていただきました(詳細は別報にて)。

2020年4月に施行された死因究明等推進基本法を契機として、国内様々な施設が死後画像を始めることとなり、積極的な施設では院外死亡例に対する死後画像撮影も開始され、全都道府県で死後CTの利用が推進されることとなりました。反面、日常診療では馴染みの少ない死後画像に対してだれが読影を担当するのか(誰が読影できるのか)、さらには縊頸や焼死等といった法医学領域の死後画像をだれが読影を行うのか、あらかじめ相談のないところで画像撮影される事態となりました。臨床診療科の中で死後画像読影に最も近い業種である放射線診断専門医に白羽の矢が立ち、多忙な日常業務に加えて新たな業務(保険診療ではないため業務外との考え方はありますが)を担当しなければならない施設が多くなりました。

臨床放射線診断との違い

私自身の経験から言えますことは、臨床放射線診断でトレーニングされていない死後画像領域は、非常にストレスが大

きい読影と思われま。また、事例背景等の情報を提供されないまま読影させられるといった乱暴な扱いを受けることが(初期には)多く、閉口することがしばしばありました。更には、画像所見を報告しても法医学者や法曹関係者には全く通じない言語のためか理解されず、コミュニケーションをとるためにかなり平易な言葉で説明しなければならないことがわかりました。と同時に、トレーニングの機会がないまま読影しなければならないため、死後変化を理解しないまま誤った解釈を、画像の専門家という立場上発言しなければならない、という大きなリスクに気づくことができました。法医学領域の死後画像については、法医学に任せ(放任する)という考え方もありますが、センターでは死後画像診断は通常の画像診断とシームレスな連続であるべきとの考えのもと、放射線診断専門医が社会において新たに担うべき役割の一つであり、トレーニングを行う必要があると考えておりました。2016年4月からセンターでは教育と研究を取り組みの中心とおき、様々なテーマについての講習会等を実施してきました。しかし、講師が用意した

パワーポイントを見るだけの受動的な経験では技能向上には限界があり、実務で有効なトレーニングの機会となっていないことが反省点として考えられました。参加者自らが能動的に死後画像を読影すること、経験したものを個人的な資料として機会があれば再度確認できること、問題点をその場で解決できること、がトレーニングにとって重要であり、実現に向けて2年をかけて計画したのがこのワークショップでした。

統括責任者として工藤與亮先生(北海道大・放)(**図1**)、講師として高橋直也先生(新潟大・放)・榎野陽介先生(東京大・

法)・村上友則先生(済生会長崎・放)・原田太以佑先生(北海道大・放)・吉田真衣子先生(千葉大・法)、兵頭はコーディネーターとして、4月15日(金曜日)(午前・午後)・16日(土曜日)(午前)の計3回、パシフィコ横浜3階会場にて死後画像ワークショップは開催できることとなりました。大会長の村上卓道先生(神戸大・放)ならびに大会運営の皆様の御高配により、十分な時間を本ワークショップに確保していただきました。また、初めての開催にもかかわらず、毎回満員でキャンセル待ちの出る盛況なワークショップとなりました。会場スタッフの皆さま、ならび

に学会参加の諸先生のご協力により成功裏に会を終了することができました。この紙面をお借りしまして、関係の各先生方に改めて御礼申し上げます(**図2**)。

プログラムは、座学1(30分)+ワーク(60分)+座学2(30分)+ワーク(60分)という時間構成をとり、座学1(**図3**)で「通常の死後変化について」、座学2(**図4**)で「院外死亡例の死後画像」のレクチャーを挟みながら、参加の各先生のペースで読影を行っていただきました。参加に際しまして承諾書にご署名をいただき、引換に死後画像データのSSDを貸し出し、参加者に持参いただいた、PC(あらかじめ



図1 統括責任者 工藤教授
冒頭、死後画像ワークショップの開催の意義につきお話いただきました。



図2 JRS死後画像ワークショップ講師の皆さま
学会期間中にもかかわらず、大変なご準備を行っていただき、ワーク中の参加者からのご質問にも的確にご対応いただきました。ありがとうございました。



図3 座学1 講師：村上先生
通常の死後変化について、豊富なご経験をもとに御講演いただきました。